

第一章 青年期と現代社会

1 青年期の課題

① 青年期

(1) 青年期の始まり

体：第2次[1]…生殖器以外の差異 ex. ひげ（男性）、体つき（女性）
心：自我の目覚め cf. 第2[2]期 ex. 「うるせーな、ほっとけよ！」

(2) 青年期の終り…体と心が成熟・平衡

(3) 青年期の定義

「第2の[3]」（18C、仏く出身はスイス）の思想家[4]）
「[5]=マン（境界人・周辺人）」（20C、独の心理学者[6]）

(4) 青年期の延長

比：前近代（17・18Cまで）では、[7]儀礼（イニシエーション）によって一挙に成人とみなされる儀式 ex. パンジージャンプ（ニューカレドニア北部）
…近現代（19Cから）になり、長い[8]（「猶予期間」）が必要に
[9]（20C、米の心理学者）の造語

∴ 知識・技能の習得 ← 社会の複雑化
社会にゆとり cf. 30歳成人説

② 自己の発見

(1) 自分に出会う

体：性的変化の受容
心：内面への旅

(2) 不安と悩み

1 劣等感（[10]） cf. これをバネにすることで成長することも

2 [11]感や[12]感

ひとりぼっちであること うとんじられ外されること

3 [13]（コンフリクト） ex. 「一人でいたい」けど「恋愛もしたい」

(3) 欲求

一次の欲求…生命維持や種族存続のための[14]的欲求
ex. 呼吸・飲食・排泄・睡眠・生殖
二次的欲求…価値を求める[15]的欲求 ex. 愛情・集団への帰属心・真善美
cf. 欲求の[16]説（20C、米の心理学者[17]）

…人間の欲求を低次のものから高次のものに分類

生理的欲求 → 安全の欲求（低次）

→ 所属と愛情の欲求 → 自尊の欲求 → 自己実現の欲求（高次）

(4) [18]機制 ex. [19]…理由付けして正当化 cf. 「すっぱいブドウ」

（防衛反応） [20]…子どもの状態に逆戻り cf. 「指しゃぶり」

[21]…価値のある活動に向け変え cf. 「失恋と詩作」

③ 性格

(1) [22]（19・20C、独の心理学者）— その人が求める価値で6つに分類

ex. 経済型、宗教型

(2) [23]（19・20C、独の心理学者）— 体型と性格で3つに分類

ex. やせ型（分裂気質）…内気、まじめ

(3) [24]（19・20C、スイスの心理学者・精神医学者）— 心的エネルギーで2つに分類

…内向型と外向型

+ α = [25]（20C、米の心理学者）

— パーソナリティー（=全人的な人格）を重視。能力・気質・性格の3つの要素
からなる 性格の基礎にある感情的傾向